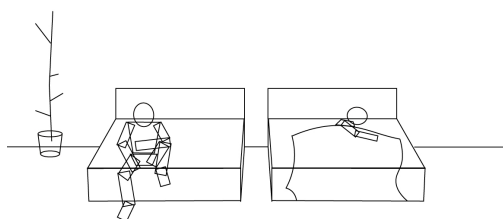


PRESS RELEASE

報道関係者各位

うさぎの喘ギ 第12回公演
ロームシアター京都 × 京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”

なみだ、となり



涙が、流れない。
涙が目の端に留まって、ずっと。

第23回AAF戯曲賞受賞後初の書き下ろし新作。

ロームシアター京都 × 京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”

うさぎの喘ギ 第12回公演

『なみだ、となり』

2026年12月25日（金）－27日（日） ロームシアター京都 ノースホールにて上演

関西を拠点に活動する劇団「うさぎの喘ぎ」（主宰：泉宗良）が、2026年12月25日(金)から27日(日)まで、ロームシアター京都 ノースホールにて第12回公演『なみだ、となり』を上演します。代表作『いみみ』で第23回AAF戯曲賞大賞を受賞後、初となる書き下ろし新作公演です。亡くなった祖父の記憶と、流れなかった涙——最もミニマルで個人的な「実感の喪失」を起点に、他者への実感を取り戻す新たな対話を切り拓きます。ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム“KIPPU”の一環として制作。チケット一般発売は2026年9月27日(日)、先行発売は9月20日(日)から開始します。

ご高覧いただきまして、貴社にてお取り扱いいただけますと幸いです。また、取材いただける際には制作担当までご連絡くださいませ。広報、宣伝のほど、ご協力よろしくお願い申し上げます。

作品について

他者との応答可能性と実感の喪失を問う

作家自身の亡くなった祖父との経験を出発点に、他者への無関心が広がる現代社会を問い直す演劇作品。舞台上で睡眠を行うレクチャーパフォーマンス『睡眠のパフォーマンス（実演）』の創作経験を生かし、舞台上で祖父のことを考えながら眠りにつく主人公の姿が、病床の祖父と重なっていくという演出に挑戦します。

また、メタファー（隠喩）とメトニミー（換喩）の違いに着目。メタファーを支える類似性と、メトニミーを支える隣接性には、それぞれ異なる分断を乗り越える力がある（と同時に、分断を生み出してしまう力もある）と考え、その両方を意識的に用いることで、観客が分断を再び「私たちの課題」として捉え直す契機を生み、新たな対話を拓くことを目指します。

あらすじ

植物状態になった祖父。僕は祖父のことを考えながら、毎晩眠りにつく。そして月日は流れ、祖父が亡くなる。お葬式で僕は泣くことが出来なかった。涙が、流れない。目の端に留まって、ずっと。帰宅してベッドに横になったとき、祖父の身体の形を思い出す。植物状態の祖父の目の端に水滴が浮かんでいた。医者は生理的な反射だという。僕は、祖父だから、家族だから、血縁だからといった理由とは違う何かで、祖父と繋がろうと考え始める。

ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム“KIPPU”

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う創作支援プログラム“KIPPU”。ロームシアター京都と京都芸術センターが協働し、若手アーティストの発掘と育成を目的とした制作支援プログラムです。本プログラムでは、創作に専念できるスタジオ（京都芸術センター 制作室）と、舞台設備・技術の備わった劇場（ロームシアター京都ノースホール）での公演機会を提供することで、作品サイズや活動フィールドの拡大等に挑戦するアーティストを支援し、新たな才能が京都から国内外へ羽ばたくことを期待しています。

作・演出 泉宗良 コメント

「私が中学生の時に祖父は3ヶ月の植物状態を経て亡くなりました。表紙の絵は、当時中学生だった私が美術の課題で描いたものです。うさぎの喘ぎはこれまで、『現代人の実感の喪失』をテーマに創作を行ってきました。『実感の喪失』とは、分かりやすいえば、リアリティのなさそれに伴う感情の動かなさだと思います。今回、そもそも、私にそのような感覚が生まれた瞬間はいつだったんだろうかということを考えた時、自然に祖父のことを思い出しました。本作では、うさぎの喘ぎが描いてきた、震災、戦争といった大きな出来事とは対極の、最もミニマルで個人的な『実感の喪失』を描きます。それが、分断の激化するこの世界で、『他者への実感』を取り戻すヒントになることを期待して。」

作・演出 泉宗良

公演概要

公演名	ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム“KIPPU” うさぎの喘ぎ 第12回公演『なみだ、となり』
日程	2026年12月25日(金)～27日(日) 12月25日(金) 19:30 12月26日(土) 13:00★／17:00 12月27日(日) 13:00／16:30 ※受付開始は開演40分前、開場は開演30分前を予定。日時指定、全自由席。 ★アフタートーク実施。未就学児のご来場はご遠慮ください。
会場	ロームシアター京都 ノースホール 〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13
作・演出	泉宗良
出演	黒木陽子、蛭田絵里香、保井岳太、吉田風許
スタッフ	演出助手：渡辺嵩宗 舞台監督：村田瞳子 照明：魚森理恵 音響：佐藤武紀 宣伝美術：泉宗良 当日運営：渡邊裕史 制作：阪田愛子
料金	一般（前売）3,500円／学生（前売）2,500円（要証明） 当日券は各+500円。全席自由。
チケット 発売日程	先行発売：2026年9月20日（日） ※京都コンサートホール・ロームシアター京都 Club、京響友の会、サポーター・パートナー会員対象／料金：一般前売 3,150円（学生は通常価格） 一般発売：2026年9月27日（日）
チケット 取扱窓口	CoRich 舞台芸術！（ https://ticket.corich.jp/apply/481402/ 当日精算のみ） ロームシアター京都チケットカウンター（TEL 075-746-3201） 京都コンサートホールチケットカウンター（TEL 075-711-3231） ロームシアター京都オンラインチケット（ https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/ 24時間購入可・要事前登録） 英語オンラインチケット（ https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/?E=1 ）
主催	うさぎの喘ぎ

共催	ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市
協力	劇団衛星、ユニット美人、白いたんぽぽ、ペイント・タレント、青少年の煮干し、合同会社 nochi、ソノノチ

鑑賞サポート・託児サービス

<きこえにくいお客様へ> ヒアリンググループの専用受信機をご利用いただけます。座席位置および台数に限りあり。詳細・お申込みはロームシアター京都 WEB ページをご確認ください。

<車椅子でご来場のお客様へ> 車椅子席をご希望の方、介助者同伴の方は、うさぎの喘ぎ制作部までご連絡ください。介助者は1名まで無料でご入場いただけます。

<託児サービス> 12月26日（土）13:00 公演は託児サービスあり。詳細・お申込みはロームシアター京都 WEB ページをご確認ください。

【ロームシアター京都 WEB ページ】<https://rohmtheatrekyoto.jp/event/148465/>

うさぎの喘ぎとは

2017 年旗揚げ。関西を中心に活動。「現代人の実感の喪失」をテーマに、実験的・前衛的でありながら、どこかノスタルジックな作品の創作・発表を行う。生活に潜む、「感じなかったことにした痛みや悲しみ」に着目した繊細なテキストと、観客に思考を促す挑戦的な演出の掛け合わせによるユニークな観劇体験を特徴とする。近年の主な作品に『いみいみ』（第 23 回 AAF 戯曲賞大賞受賞）、『演劇 RTA ハムレット』、『睡眠のパフォーマンス（実演）』等。

公演実績（作品ピックアップ）

『いみいみ』

2021 年の初演から各地で再演を重ねる代表作。全編が「A は A'」のような同語反復（トートロジー）で構成された一人芝居で、女性が性的な対象として客体化されることへの抵抗を描き、フェミニズムをテーマにした作品として高い評価を受けている。2024 年にはメニコン シアターAoi（愛知）に招聘され、2 週間の滞在制作を実施。第 23 回 AAF 戯曲賞大賞受賞。



2024 年 メニコン シアターAoi（愛知） 撮影：羽鳥直志

『演劇 RTA ハムレット』

2023 年、扇町ミュージアムキューブのオープニングラインナップ作品として制作。シェイクスピア『ハムレット』を、上演時間の短縮を競う RTA（Real Time Attack）になぞらえて上演し、公演ごとのタイムを SNS で観客と共有した。おおさか創造千島財団「創造活動助成 for U30」採択事業。



2023 年 扇町ミュージアムキューブ CUBE05（大阪）

『睡眠のパフォーマンス（実演）』

2023 年、ショーケースへの出品作として制作されたレクチャーパフォーマンス。日本人の睡眠時間の少なさを説いた男が、実際に舞台上で睡眠をとる。休息の時間すらも自己管理を強いられる資本主義社会のありようを浮かび上がらせる。本作の創作経験は、『なみだ、となり』の演出にも生かされている。



2023 年 芸術創造館（大阪）

取材申し込み・お問い合わせ

うさぎの喘ギ

担当 阪田愛子（制作）

TEL 090-3949-8425

E-MAIL usagino.aegi@gmail.com